

緑のセンターだより

NO. 135 平成 22 年 6 月 1 日 発行

発行元: (財)札幌市公園緑化協会 豊平公園緑のセンター

アジュガ

Ajuga L.

シソ科 アジュガ属 (和名キランソウ属)

ヨーロッパ、アジア、アフリカの温帯から熱帯にかけて、約 50 種が分布しています。日本にもキランソウ、ジュウニヒトエ、ヒイラギソウなどを含め 10 種余りが自生しています。一年生あるいは多年生の草本です。

茎はほぼ四角形。葉は全縁か円鋸歯を対生します。花は葉状の苞をとまって茎に穂状花序につきます。萼は鐘形で 5 歯があり、花冠は 2 唇形で上唇は小さく 3 裂し、下唇は大きくて目立ちます。花筒内部には毛環があります。雄しべは 4 個でその内、上の 2 個は短くなっています。花色は青、白、桃色などがあります。果実は倒卵形の分果で表面に網状脈のある小堅果 4 個からできています。

「アジュガ」の名前で主に出回っているのは、アジュガ・レプタンス(*A.reptans* 和名セイヨウキランソウ)です。本種は草丈が 15~20cm で、葉は暗緑色で鋸歯縁を有し、初夏にブルーや青紫の筒状花を穂状につけます。陽地、日陰地でも生育は可能ですが、木漏れ日の当たる湿気のある場所を好みます。花後数回株元から 5~6cm 残して切り詰めると、横に這うように広がり格好のカバープランツとなります。

硬い土では良好な生育ができないので、植栽地は事前に十分耕して膨軟にしておきます。生育の旺盛な植物なので、庭植えでは肥料はほとんど必要ありません。鉢植えの場合は春先に緩効性の肥料を少し施す程度で十分です。

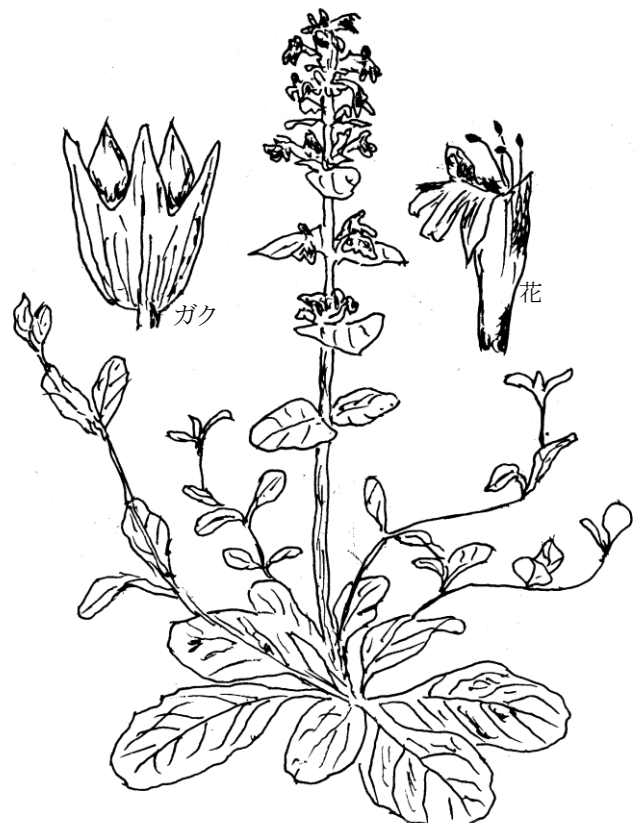
開花株はやがて枯れますが、花後に伸びる匍匐枝の先に発生する新しい株によって自然に覆われます。不十分な箇所は随時補植ができます。

斑入り葉の園芸品種では、斑が抜けた緑葉が出る場合がありますので見つけ次第取り除きます。また、品種の中には、強い日差しに当たると葉が焼けるものがありますので、夏の直射光に当てないようにします。

病害虫については、過湿になると立ち枯れ病が発生します。風通しが悪くなると初夏や秋にうどんこ病が発生します。害虫は特にありません。

また、この仲間のキランソウ(*A.decumbens*)の別名を「ジゴクノカマノフタ(地獄の釜のふた)」といい、地面に平らに張り付くように葉や茎を広げる姿からついたと言われていますが、昔、民間薬としてたくさんの効能があるとされていて「病気を治して地獄の釜にふたをする」ということからとも言われています。

(M.T)

*A.reptans*

引き抜けばこれが地獄の釜の蓋 掬 泉

6月の園芸作業

このコーナーの園芸作業は札幌地方での目安です。
ここに掲載した以外の作業もたくさんありますので、
ご不明な点は緑の相談までお気軽にお問い合わせください。

緑の相談受付 10:00～12:00、13:00～16:00
 ☆豊平公園 811-9370 月曜以外毎日
 ☆百合が原公園 772-3511 木曜、日曜
 ☆平岡樹芸センター 883-2891 水曜、土曜

◆果樹類の病害虫防除

果樹類は病害虫の被害が多く、適正な防除を行わないと満足できる収穫は出来ません。
以下に防除事例を紹介しますので参考にして下さい。(4月に石灰硫黄合剤散布が前提)

	果樹名	病害虫名	病状・加害状況	防除対策
病害	ウメ、モモ スモモ	縮葉病	新芽が伸び始める頃、葉や生長点が縮れたり、火ぶくれ状の奇形となり、白粉状物で覆われる。	病葉は取り除き、落花後オーソサイド水和剤やトップジンM水和剤等を2～3回散布
	サクランボ モモなど	灰星病 (灰色カビ病)	果実が水浸状に腐敗し、灰色、灰褐色の粉状物で覆われる。	幼果期よりトップジンM水和剤、トリフミン水和剤等を2～3回散布
	各果樹共通	黒星病	葉や果実に暗緑色の病斑ができ、時には新梢にも発生する。	5月中旬～6月下旬にかけての防除が効果的で、トップジンM水和剤、トリフミン水和剤等を3～4回散布
		胴枯病	虫や剪定時の傷、日焼け、凍害部分から被害が進行し、幹などの一部が軟化腐敗する。	被害部を削り取り、トップジンMペースト等の殺菌剤を塗布 樹を健康に保ち、傷付けないように注意
虫害	各果樹共通	シンクイムシ類	幼果から果実に産卵、7～10日内外で孵化し果肉を食害する。	5月下旬からスミチオン乳剤等を7～10日間隔で2～3回散布(虫に掛からないと効果がない、高温時の散布は避ける)
		アブラムシ類	開花後、新葉が展開する頃から数種発生し吸汁加害。	
		ケムシ類	主に葉を食害する。	
		ハマキムシ類	葉を巻き中で食害する。	
	サクランボ	オウトウミバエ	幼果に産卵孵化した幼虫が果肉を食害する。	幼果期(小豆粒大)からスミチオン乳剤等を2回位散布
		オウトウハバチ	小さいナメクジのような虫が葉脈を残して葉を網目状に食害する。	

※オーソサイド水和剤 800 倍、トップジン M 水和剤 1000 倍、トリフミン水和剤 1000 倍、スミチオン乳剤 1000 倍
 ※農薬を使うときは、説明書きを良く読み安全使用を心がけましょう。
 ※薬剤散布間隔は 7～10 日です。

◆イチイ（オンコ）の刈り込み

【刈り込みの時期と刈り込み回数】

5月下旬から伸び始めた新梢は、6月下旬には生長を止め、組織の充実が始まります。札幌近郊では6月下旬から7月上旬までに刈り込むと1回ですみます。その後、伸びた部分を9月上旬までに形を整える程度に刈り込むとより柔らかく仕上がります。遅くとも9月10日頃までには終わらせましょう。強く刈り込んで回数を少なくするよりは、弱く度々刈り込んだほうが綺麗に仕上がります。

【刈り込み強度】

若い木、上部の枝、早い時期の刈り込み、樹勢の強いものは萌芽力が強く、強度の刈り込みに耐えますが、針葉樹は、葉の付いていない枝から不定芽が出にくいので深刈りには注意しましょう。

刈り込みイチイの内側には枯れ枝がたくさん有ります。枯れ枝は切り取って風通しを良くしておきましょう。また樹勢を保つために施肥も大切です。

◆松のミドリ摘み

松には二葉松(アカマツ・クロマツ等)、五葉松(ハイマツ・キタゴヨウマツ・チョウセンゴヨウマツ等)があります。松の枝先から新梢がロウソク状に伸びて新葉が展開する前の状態を「ミドリ」と呼び、これを適宜摘み取ることを「ミドリ摘み」といいます。

【目的】

松は自然の状態では建築用材として利用されるほどの大木になりますが、小枝を増やし、節間を詰めて庭木として美しい樹形を造るため、また、それを維持していくために、ミドリ摘みを行います。

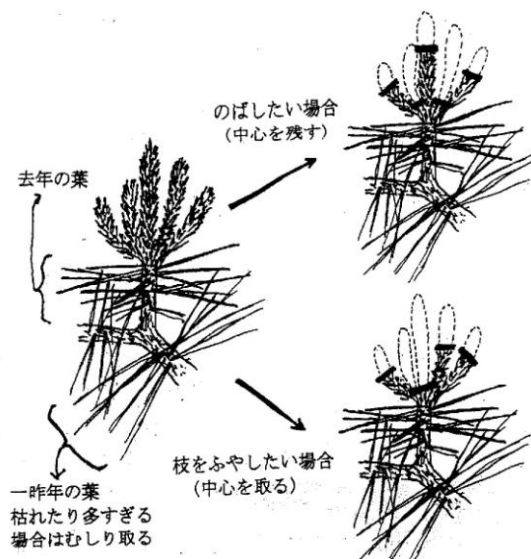
【時期】

札幌近郊では5月下旬から6月中旬(気候により多少の差異があります)が適期です。葉が伸びる前のロウソク状の時であれば、指で簡単に折ることが出来ます。新葉が伸びて、指で折れなくなったらハサミを使って切っても良いでしょう。この場合、ハサミを立てて使用し、葉先を切らないようにします。葉先を切ると葉の先端が茶色になります。

【要領】

中心に主軸となる太いミドリが伸び、そのまわりに3〜4芽、あるいはそれ以上のミドリが出ることもあります。通常、中心のミドリをかき取り、平均に3方向へ伸びるように3芽だけ残し、他はかき取ります。伸ばしたい枝は、中心のミドリを残します。残したミドリは、先の方の1/2〜1/3位を摘み取ります。勢いの強いものは多少短く、勢いの弱いものは多少長めに残します。下枝のミドリも長めに残します。アカマツはクロマツに比べて樹勢が弱いので、ミドリ摘みは軽く行う方がよいでしょう。松の芽は葉の間の鞘の中に付きますから、葉のないところで摘み取ると芽が出ないので気をつけましょう。

作業は松の上から下へ、奥から手前に進めて行くと衣服に松脂が付きにくいです。



病害虫を知ろう！ Part10

アオムシ (モンシロチョウ) の巻 (Pieris rapae LINNE)

《 症状と診断 》

アオムシとは、一般には身近でよく見るモンシロチョウの幼虫を指します。年2〜3回の発生で、蛹態で家屋の軒下、板壁の間隙などで越冬します。4月下旬頃から羽化し始め、5月上旬頃から盛んに飛翔します。成虫の寿命は10〜14日間位で、その間草花や雑草などの花の蜜を吸って生活し、主にアブラナ科植物の葉などに黄色で細長い小さな卵を1粒ずつ、1雌で100〜200卵産みつけます。

成虫は、体長20mm内外、翅開帳55mm内外です。翅は白く、前翅の先端が灰黒色で、同色の斑点が前翅に2個、後翅に1個あります。幼虫は、孵化当初は1.7mm内外で、体が緑色で全身に細かく短い毛がうっすらと生えています。老熟すると体長28mm内外、緑色や灰白色などの蛹になり、羽化して成虫になります。

20℃での発育は、卵期間4日、幼虫期間17日、蛹期間11日で、ほぼ1ヵ月で1世代を完了します。

《 被害状況 》

幼虫は主にアブラナ科の野菜や草花の葉を食べます。体が大きくなると食欲が旺盛になり、多く発生すると、葉を食べつくしてしまうことがあります。

〈モンシロチョウに近い仲間〉

- ・モンキチョウは、年3〜4回の発生。ダイズ、クローバ、アルファルファ、ベッチなどを食害します。
- ・エゾシロチョウは、年1回の発生。リンゴ、ナシ、カイドウ、ボケ、サクラなどを食害します。
- ・オオモンシロチョウは、1996年夏に道南や道央地方で日本で始めて確認されました。

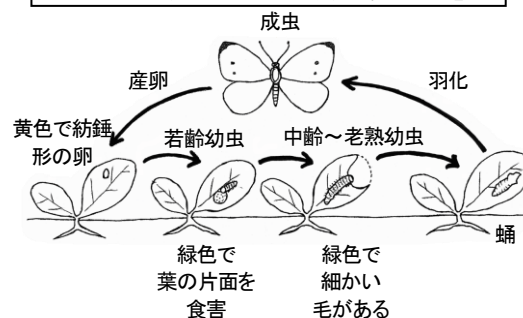
アブラナ科(キャベツ・ダイコンなど)の植物を集団で暴食します。

前翅表の縁の黒色が長めで翅開帳55〜70mm。卵は黄色でたくさんの塊で産み付けられ、幼虫は背の部分に黄色の縞模様があり、胴の部分に黒い斑紋があります。

《 防除法 》

- (1) 防虫ネットなどで被覆し、産卵を防止する。
- (2) タネ播きや定植時、オルトラン粒剤、モスピラン粒剤の土壌施用。
- (3) アクテリック乳剤500〜1000倍液(収穫7日前)の散布。
オルトラン水和剤1000〜2000倍液(収穫7日前)の散布。
モスピラン液剤250倍液(収穫7日前)の散布。

アオムシ(モンシロチョウ)の発生生態



6月～7月の催しのお知らせ

豊平公園 緑のセンター 豊平区豊平5条13丁目 TEL 011-811-6568

内容	日	時間	申込受付開始日	費用・備考
園芸教室				
春のミニ盆栽を作ろう	6月8日(火)	13：30～	5/12(水)～	3,000円
初めてのハーブ寄せ植え教室	6月26日(土)	13：30～	6/11(金)～	材料費実費
果樹などの夏の病害虫防除	7月4日(日)	13：30～	〃	無料
洋ランの夏の栽培方法	7月10日(土)	13：30～	〃	〃
展示会				
現代押し花アート展	6月8日(火)～13日(日)		日本レミコ押し花学院	入場無料
ミニ盆栽展・山草展	6月11日(金)～13日(日)		札幌草樹会	
ハーブフェア	6月15日(火)～27日(日)		豊平公園花とハーブの会 フルールアール	
あけび・籐 作品展ー自然からの贈り物ー	7月6日(火)～11日(日)		あけびつる工房らせん	
自然観察会				
夏の観察会	7月3日(土)	10：00～	6/11(金)～	100円
クラフト教室				
あけび工房 ラベンダーバスケット	6月30日(水)	10：00～	6/11(金)～	2,000円

平岡樹芸センター 清田区平岡4条3丁目 TEL 011-883-2891

講習会 内容	日	時間	申込開始	費用・備考
庭木の移植	6月13日（日）	10：00～	5/11(火)～	300円
ゴヨウマツの整姿剪定	7月10日（土）	10：00～	6/11(金)～	〃
		13：30～	〃	〃
クラフト教室				
Pretty Style アレンジメント(ボックスアレンジ)	6月17日（木）	10：00～	6/11(金)～	3,500円

百合が原公園 緑のセンター 北区百合が原公園210 TEL 011-772-3511 <http://www.sapporo-park.or.jp/yuri/>

実践講座	日	時間	申込受付開始	参加費
雑草で堆肥づくり	6月12日(土)	10:30～	5/11(火)～	300円
植物の増やし方(挿し木)	6月27日(日)	13:30～	6/11(火)～	800円
展示会		日		料金
食虫植物展	5/25(火)～6/13(日)		入館料130円	
ハンキングバスケット展	6/15(火)～6/20(日)		〃	

滝野すずらん丘陵公園 南区滝野247番地 TEL 011-592-3046(フィッシングタキノ) <http://www.takinopark.com/>

実践講座	日	時間	申込受付締切	参加費
ちびっ子釣り大会	5/22・6/19・7/17・ 8/28・9/18・10/9	10:00～11:00	各大会日の1週間前まで	1,800円 貸竿・釣餌込

豊平公園 緑のセンター 公式ウェブサイト

<http://www.sapporo-park.or.jp/toyohira/>

※「緑のセンターだより」バックナンバー公開中 ※

*** ハーブフェア 6月15日(火)～27日(日)**

主催：豊平公園緑のセンター、豊平公園花とハーブの会
共催：フルールアール

ハーブディスプレイ
たくさんハーブを展示します。
苗の販売コーナーもあります。

ハーブティー試飲コーナー
爽やかな香りのハーブティーをご用意して
お待ちしております。ハーブを使った簡単
料理のレシピの紹介もあります。
期間中毎日(休館日除く)

レカンフラワー展
押し花?ドライフラワー?
新しいタイプのお花のアートの世界を
ご紹介します。

初めてのハーブ寄せ植え教室
6月26日(土) 13時30分
ハーブと花を使ってかわいい
寄せ植えをつくります。
参加費：材料費実費
定 価：1,000円
申 込：6月12日から

レカンフラワー体験会
6/19(土)、20(日)、26(土)、27(日)
気軽にできる作品作りを行います。
あなたもレカンフラワーの
世界を体験してみませんか?
参加費：500円
申込：随時
時間：約30分

お申し込み・お問合せ
豊平公園緑のセンター
札幌市豊平5条13丁目
011-811-6568
地下鉄東豊線 豊平公園駅下車すぐ